

松坂屋コレクションの服飾文化史的研究 A Cultural and Historical Study on the Matsuzakaya Collection

五味 良子^{*1+}, 佐野 尚子^{*1+}, 田中 綾乃^{*2+}, 荘加 直子^{*2+}
Ryoko Gomi^{*1+}, Naoko Sano^{*1+}, Ayano Tanaka and Naoko Shoka^{*1+}

*1 名古屋市博物館 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1

Nagoya City Museum,

1-27-1 Mizuho-dori, Mizuho-ku, Nagoya City, Japan

*2 松坂屋美術館

Matsuzakaya Art Museum

⁺服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : This research aims to carry out fundamental studies on the *kosodes* of the Edo period in the Matsuzakaya Collection. The collection, which was gained at the Matsuzakaya Textile Reference Archive in Kyoto, is composed of historical costumes and textile fragments. To study Japanese clothing culture, it should play an important role in terms of quality and quantity. The collection has been, however, unopen to the public because it has been used as the design resource of the Matsuzakaya Department's products and treated as the company's secret. Therefore, the detail is yet to be examined.

Under the reorganization of the company, the collection was moved from Kyoto to Nagoya. With the cooperation of the company, we focus on the distinguished *kosodes* found in the collection. This year, we took basic data of the sixteen works and visited textile-related institutions in order to learn the way to preserve and exhibit them properly in the future. As a result, we made some interesting discoveries: many rare motifs were found in these *kosodes*, and one of them seemed to match the back half in the Nomura Collection of *kosode* screens. As we continue to investigate these objects, the unique character of the Matsuzakaya collection shall be revealed.

研究の目的

松坂屋京都染織参考館で収集された染織関係のコレクション（小袖・能装束・帷子・帯などの衣裳や裂地が中心）は、質・量ともに日本の服飾文化史を研究する上で重要なものである。しかし、呉服デザインの参考資料として社外秘の扱いであったため、ほとんどの資料は未調査のまま、具体的な内容は明らかになっていない。

今回、大丸松坂屋の業務見直しの中で、この松坂屋コレクションが京都から名古屋に移管されることとなった。本年度の研究は、大丸松坂屋の協力のもと、松坂屋コレクションの中の優品の

*1) ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp

小袖 16 点について基礎的な調査を行い、資料を保存・公開・活用していくためのデータを収集することを目的とする。

方法

松坂屋コレクションの具体像を明らかにするため、優品の小袖について基礎的調査を実施し、資料の基本情報を整備する。その過程で、染織資料の所蔵施設で保存環境や展示方法に関する聞き取り調査を行い、今後の作業にあたってのベースを作り上げるとともに、外部有識者を招いて、資料の検討を深める。


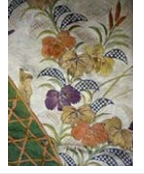






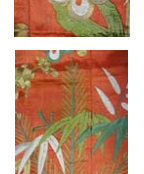
結果

平成 23 年 1 月に、東京国立博物館・東京文化財研究所・共立女子大学・文化女子大学・国立能楽堂など、染織関係資料の所有施設で資料の保存・展示公開の方法の聞き取り調査を行った。染織資料の保存にあたっては、個々の資料に圧力がかからないよう、なるべく重ねずに広げて収蔵すること、桐の箆笥に収蔵するのが望ましいが、入手が困難な場合は中性～弱アルカリ性の紙箱を使うこと、各資料の状態によって、柔軟に対応することが必要である。

また展示公開にあたっては、温度 20℃、湿度 50～53%程度、100lx 以下の環境とすること、針を使う場合は、刺繍用の径の細いものを使い、織糸と織糸の間に刺すようにして生地を傷めないよう注意すること、展示によって資料を傷めるリスクを踏まえた上で、公開する意義を考えて対象を選ぶことが必要である。さらに、収蔵スペースや展示施設の能力に左右されるが、脆弱な染織資料の保存活用には、細心の注意とともに環境の維持をはかることが重要である。

また平成 22 年 12 月に対象資料の検討を行い、23 年 2 月に武蔵大学・丸山伸彦教授による調査指導を受けた。研究対象の小袖は一見すると各時代に典型的な表現を取るように映るが、その実、モチーフの面で珍しいモチーフや見立て的要素を多々含んでいることが、基礎データを取る中で判明した。これは、呉服のデザインという特異な用途のために収集されたためと見られる。また、野村正治郎氏旧蔵の小袖屏風のコレクション中の一点と、元来同一であったと見られる小袖が含まれていることが分かった。今後、両コレクションの比較検討により、それぞれのコレクションが形成された、昭和初期の染織収集の一面が明らかとなると思われる。

なお平成 22 年度の研究対象資料 16 点のうち、松坂屋美術館において、「白縮緬地萩紫絞模様小袖（萩模様小袖）」（平成 23 年 3 月 5 日～4 月 10 日）を、名古屋市博物館において、「染分縮緬地八ッ橋菊模様小袖」および「納戸綸子地牡丹折枝鹿子模様小袖」（平成 23 年 3 月 29 日～5 月 29 日）を展示する。各資料の基本情報のデータは次の通りである。

NO.	点数	分類	名 称	法量(cm)	材質	技法	模様	時代	所見	保存 状態	全体写真
1	1	小 袖	白綸子地河原撫子模様小袖	丈148.5、 衿64.5	綸子地	鹿子紋に 型鹿子を 併用、色 糸刺繍	撫子、流 水、蛇籠	江戸前	<p>紅・藍の型鹿の子により、撫子の葉を表す。</p> <p>藍の鹿子紋で表された流水には、手直しの跡が見られない。水のたまりの表現がユニークである。</p> <p>撫子〔花部分〕:刺繍(紫・紅・鬱金・白・金糸)。撫子〔葉部分〕:刺繍(萌葱・濃萌葱)、鹿子紋(藍・紅?)。蛇籠〔本体〕:染(濃萌葱)、刺繍(鬱金・金糸)。蛇籠(杭部分):刺繍(紫・紅・金糸)</p> <p>肩山接ぎ。袖・襟は別布の後補。袖は本来、振袖か。打敷の直しと見られる。</p>	○	 
2	1	小 袖	白縮緬地萩紫紋模様小袖	丈153.0、 衿62.0、 脇下28.0	縮緬地	紫色の 紋、色糸 刺繍	萩	江戸中	<p>友禅染の糸目糊を用いた色挿しによるシャープな輪郭線と、にじみを生かした紫色の紋りの対比が印象的である。</p> <p>萩〔花部分〕:友禅染、刺繍(紅・金糸)。萩〔葉部分〕:友禅染、刺繍(紅・金糸)。萩〔茎部分〕:友禅染、刺繍(濃萌葱)</p> <p>右袖の前側、左袖の後側に接いだ跡あり、振袖をつめたか。</p> <p>刺子の直しの跡が左前にあり。</p>	○	 
3	1	小 袖	緋綸子地石畳鉄線模様小袖	丈146.0、 衿60.5	綸子地	友禅染、 紋縫染	鉄線、石 畳	江戸中	<p>墨による塗りつぶしの黒と、鹿子紋による石畳模様。</p> <p>石畳の模様は強い印象を与えるが、墨一色のものと鹿子紋のものとを併用することでバランスを取り、重たさを感じさせない。</p> <p>鉄線〔花部分〕:友禅染、刺繍(紅・藍・白・金糸)、鹿子紋(藍)。鉄線〔葉部分〕:友禅染、金糸。鉄線〔蔓部分〕:刺繍(濃萌葱)</p> <p>襟部分に継いだ跡あり。</p>	○	 
4	1	小 袖	緋綸子地松竹梅模様小袖	丈171.5、 衿60.8	綸子地	色糸の刺 繍	松・竹・梅	江戸中	<p>松〔枝部分〕:刺繍(萌葱)。松〔葉部分〕:刺繍(濃萌葱)。松〔芽部分〕:刺繍(金糸)。竹〔幹部分〕:刺繍(紅・萌葱・濃萌葱・金糸)。竹〔葉部分〕:刺繍(紅・萌葱・濃萌葱・白・金糸)。梅〔花部分〕:刺繍(紅・濃萌葱・白・金糸)。梅〔枝部分〕:刺繍(萌葱・鶯色・白)</p> <p>松竹梅は通常松が立木だが、この場合は松は若松で、梅と竹が立木という点で、新しいタイプとも言える。</p> <p>刺繍の手法は優れている。茶色と白色の色糸で、梅の枝の中を刺繍している。色糸の数自体は少ないが、組み合わせによって華やかに見える。</p> <p>奇をてらったところがなく、オーソドックスな模様と構図。写実的な表現と、パターン化された表現が混在している。</p> <p>オリジナルに近い姿と見られるが、当初は打掛だったか。</p> <p>当初梅の紅はもっと朱色がかっていて、綸子地の色はもっと濃かったと見られる。白地の綸子部分は、切りつけによる。</p> <p>小袖の形態上の枠を意識して、枠内におさめようとする意識がある。</p>	○	  

5	1	小袖	濃萌葱縮緬地鉄線唐草文様	丈150.5、 衿63.0	縮緬地	色糸の刺繡、友禪染	鉄線・唐草	江戸中	<p>藍と黄を重ねて萌葱色の地を出す。地の色むらは、後世の退色によるものと見られる。</p> <p>蕨の部分の白い玉状の表現は、朝露と考えられる。友禪染の糸目の輪郭が、少しずれたりぼやけたりしているので、両面から糊置きをしたと見られる。</p> <p>ひとつずつのモチーフが小さくなってきており、18世紀中頃を下ると見られる。</p> <p>縁取りのみの金糸刺繡と、中までつめた金糸刺繡がある。紅色の花の周りには、刺繡の抜けた跡がある。</p> <p>袖の部分の模様が合わないので、振袖だった可能性あり。</p>	○	 
6	1	小袖	納戸絹地近江名所模様小袖	丈156.0、 衿61.5、 脇下28.0	絹地	友禪染（白あげ）	近江名所風景	江戸中	<p>一見、近江八景＝石山秋月（石山寺）、勢多（瀬田）夕照（瀬田の唐橋）、粟津晴嵐（粟津原）、矢橋帰帆（矢橋）、三井晩鐘（三井寺）、唐崎夜雨（唐崎神社）、堅田落雁（浮御堂）、比良暮雪（比良山系）が散らされているようだが、八景すべてが描かれているわけではなく、近江の名所が散らされたものと理解される。</p> <p>背面右下の行列のようなモチーフは、不明。</p> <p>地紋は「飛紗綾」。</p> <p>両面糊置ききの白上げをした、手のよい友禪染が中心で、一部に刺繡（紅・萌葱・濃萌葱・金糸）を施す。金糸は江戸後期の印象がある。18世紀中頃を少し下るか。</p> <p>模様表現としては、やや手慣れすぎて定型化が進んでいる。ひとつずつのモチーフも小さく、その点でも18世紀中頃を少し下ると見られる。</p> <p>肩山・袖山は現状変わらず、袖はつめた可能性がある。</p>	○	  
7	1	小袖	染分縮緬地柳に水葵文様	丈146.5、 衿59.5	縮緬地	紫は絞り、萌葱は糊、五つ紋は柏巴紋を絞り	柳・水草	江戸中	<p>腰を境に紫色と濃萌葱色に染め分けている。紫色の地は絞りによるものと見られる。周防に藍を重ねたものと見られる。</p> <p>モチーフは、水葵の葉と花？、沢瀉の葉と花？、芦および芽ぶき柳。</p> <p>友禪染による模様のにじみが見られるため、両面から糊を置き、白上げしたものと見られる。</p> <p>紋は絞りであり、伊達紋と見られる。</p> <p>袖下は別布。長いものをつめたか。裾が狭く、後世の直しか。</p> <p>背縫いは紋のところは合っているが、下部は模様が合っていない。</p> <p>紅や刺繡が入らず、全体的に落ち着いた印象。</p>	○	  
8	1	小袖	白縮地流水に山吹疋田文様	丈155.0、 衿60.5	縮地	墨で流水模様、型鹿子、色糸刺繡	流水・山吹	江戸中	<p>生地は時代が下り、紗綾形がひきしまり小柄になった縮地。紅と藍による典型的な型鹿子を用いる。</p> <p>流水：墨、山吹〔花部分〕：刺繡（紅・金糸）、絞（藍・紅？）。山吹〔葉部分〕：絞（藍・紅？）。山吹〔茎部分〕：刺繡（濃萌葱）</p> <p>山吹の花の刺繡の脱落後に「くろ」の色糸の指定と見られる文字あり。刺繡は劣化したため、抜いたと見られる。黒色の山吹の刺繡がなされていたとすると、当初は強烈なインパクトのある色彩であったことが想像される。</p> <p>流水に山吹は、歌枕である六玉川のうちのひとつ、京都の「井手の玉川」を示す。</p> <p>袖の内側に木綿のような納戸色の裏地あり。</p>	○	 

9	1	小袖	紺紗綾地渚に貝模様小袖	丈150.0、 裾60.0	紗綾地	友禪染	蝶・貝・海草	江戸後	<p>紗綾地の生地。</p> <p>海辺の景に揚羽蝶を散らす珍しい模様。あるいは、蝶は着用者の家紋であったか。</p> <p>榮螺状の草花は伊達紋と見られ、本来前身幅に二つと背縫い、後ろの両袖に三つついていてと見られるが、仕立て直しの際に、袖が左右逆になり、さらに襟の中にひとつ隠れてしまったと見られる。</p> <p>友禪染のみで刺繍はなし。</p> <p>背縫いで模様が合っていない。また、天地が逆になっているので、肩山は仕立て直し。</p> <p>紺色が非常に濃く、何度も漬け染めをしたか。</p> <p>控えめな色彩、刺繍を用いず白上げで小紋を散らすなど、華やかさを避ける様子は、江戸後期の特徴が如実に表れている。</p>	○	
10	1	堂上小袖	緋縮緬地菖蒲鉄線燕模様小袖	丈166.7、 裾63.0	縮緬地	色糸刺繍	燕・鉄線・杜若・雲	江戸後	<p>一見縦縞は山繭のようなが、経糸が完全に白く残っており、山繭のように染まっていないため、経糸に白糸・緯糸に紅糸を使ってしぼをかけて縮緬地に織り上げたもの。</p> <p>雲:刺繍(金糸)。波紋:刺繍(白)。鉄線〔花部分〕:刺繍(紫・薄紫・白)。鉄線〔葉部分〕:刺繍(萌葱・濃萌葱)。鉄線〔蔓部分〕:刺繍(濃萌葱・金糸)。鉄線〔柵〕:刺繍(金糸)。菖蒲〔花部分〕:刺繍(紫・薄紫・鬱金・白)。菖蒲〔葉部分〕:刺繍(萌葱・濃萌葱・金糸)。燕:刺繍(紅・肌色・茶・黒・白)。</p> <p>装飾は刺繍だけによる、公家装束。刺繍の模様が途中で途切れており、袖をつめている。</p> <p>燕の刺繍は、よく残っている。花の下には刺繍の抜けた跡があり、意図的に除去した様子。当初は岩のようなものであったか。</p>	○	
11	1	小袖	白縮子地牡丹蘇鉄縫鹿子模様小袖(後身分)	丈151.0、 裾61.0	縮子地	鹿子紋、色糸刺繍	牡丹・蘇鉄・扇・岩?	江戸前	<p>縮子地は輪違?と紗綾形・葉の地紋。</p> <p>岩:鹿子紋(紅)、雲?:鹿子紋(紅)、扇:鹿子紋(藍)、刺繍(紅?・茶・白)、牡丹:[花部分]刺繍(紫・紅・茶・白・金糸)、[茎と葉部分]鹿子紋(藍)、刺繍(萌葱・濃萌葱)、葉の一枚は濃萌葱の染分地に金糸で縁取り、蘇鉄:[葉部分]鹿子紋(藍)、刺繍(紫・紅・萌葱・濃萌葱・茶・白)、一枚は濃萌葱の染分地に金糸で縁取り、[茎部分]:刺繍(萌葱)</p> <p>藍染の鹿子紋は、型によるものと見られる。紅染の鹿子紋は手絞りか。</p> <p>濃萌葱色の葉は金糸で縁取ることで、染めむらの生じる縁を隠している。牡丹の葉とは異なり、菊の葉に似る。</p> <p>蘇鉄・牡丹・扇面の組み合わせは、典拠不明。</p> <p>紋りと刺繍のみと古い要素が強く、17世紀元禄期のものと見られる作例。</p>	×	
12	1	小袖	白縮子地牡丹蘇鉄縫鹿子文様(上前分)	丈151.0、 裾61.0	縮子地	鹿子紋、色糸刺繍		江戸前	<p>No.16の左上前部分。</p>	×	

13	1	小袖	白縮地鹿子扇に菊文様(後分)	丈132.5、 裾56.5 (うち袖は26.5)	縮地	鹿子紋、 色糸刺繍	菊・扇・籬	江戸前	<p>鹿子紋は、藍染の部分は型のようなが、紅染の部分は手絞りか。</p> <p>籬の隣の花は、種類が明らかではない。</p> <p>菊の葉は、葉脈まで表現している。一部刺繍が取れて、墨線が見える。</p> <p>扇: 鹿子紋(藍・紅が退色か)、刺繍(紅・茶・白)、籬: 鹿子紋(藍・紅が退色か)、菊[花部分]: 刺繍(紅・茶・白・金糸)、[茎部分]: 萌葱・濃萌葱・浅葱・茶、[葉]: 萌葱・濃萌葱・浅葱(いずれも白糸で縁取り)、下方の植物[花]: 萌葱・浅葱・金糸、[葉]: 刺繍(紅・茶・白)、茎: 刺繍(茶)</p> <p>打敷の直しか。</p>	×	
14	1	小袖	紫縮地総鹿子車輪模様小袖(前身分)	丈143.0、 裾59.0	縮地	鹿子紋	源氏車	江戸前	<p>油小路錦江戸染師・嘉兵衛作と伝わるが、銘の由来は未詳。</p> <p>江戸時代後期の総絞の作例とも雰囲気異なり、時代の位置づけが難しい。絞りには、にじみを修正した跡は見られないため、にじみが肯定的に受け止められて来た時期の作例と見られる。</p> <p>同一の模様の小袖の後身幅を使った小袖屏風が、野村正治郎氏旧蔵の小袖屏風に含まれており、元は一体のものであったと見られる。</p>	×	
15	1	小袖	染分縮緬地ハッ橋菊模様小袖	丈60.0、 裾134.0	縮緬地	友禅染	八橋・菊・葵・杜若・藤	江戸中	<p>刷毛による引き染めで、下部の藍を染め、中央部は暈かしを入れたのではないかと推測される。松皮菱形で上下を分ける。</p> <p>菊のほか、杜若・葵・藤なども友禅染で描かれている。</p> <p>橋上の器物は不明である。</p> <p>橋と水と杜若という、『伊勢物語』の典型的な表現。古様を残すオーソドックスさと、新しさが混在している。</p> <p>金糸の抜けた跡に墨の下絵が見られる。</p> <p>模様がつながっておらず、本来は現状より幅があったと見られる。振袖をつめたか。裾は構図上、それほど詰めたとは思われず、形態は江戸時代前半の特徴を残す。</p> <p>一度打敷になったか？</p>	○	
16	1	小袖	納戸縮地牡丹折枝鹿子模様小袖	丈164.0、 裾64.0	縮地	鹿子紋 (白上げ)	牡丹	江戸後	<p>江戸時代後期の、典型的な白上げ技法による散らし模様の作例。</p> <p>染めのにじんだ部分に、修正を施していない絞りの技術は、丁寧に破綻がなく優れている。</p> <p>本来は裏地が付いていたと見られる。裾のほつれは、裁断によるものか。袖も詰められていると見られる。</p> <p>襟が細く、立衿が長い。</p>	○	